

早稲田大学

図書館紀要

第 29 号



図書館の能動化

奥島 孝康

このところ、「幕末・明治のメディア展」とか、「生誕一五〇年記念大隈重信展」とか、大きな展示会の開催とその図録の出版とが続いた。いずれも好評であり、担当した館員諸氏の努力の成果である。そこで思ったことを二つ。一つは、本館の所蔵資料の利用についてである。図書館の資料は、収集されるだけに止まっているは、その価値を生じない。しかし、本館に所蔵資料がフルに利用されているかどうか、現状では心許ない。いま一つは、所蔵資料の加工についてである。資料の利用を高めるには、レファレンスの充実が第一であろうが、もう一歩進めて、資料は研究教育に利用しやすい形に加工して提供するくらいの積極的取り組みが必要である。図録等の見事な出来栄えを見るかぎり、本館にはその能力と条件が備っていると思う。

これからの図書館は、研究者・学生に対して、所蔵資料の利用を「待つ」のではなく、それを「働きかける」くらいの姿勢が必要ではなからうか。

1988年12月